

山口県教育委員会会議録

日時：平成30年7月20日

場所：山陽小野田市立中央図書館 視聴覚ホール

教 育 長	<p>ただいまより平成30年7月の教育委員会会議を開催いたします。山口県教育委員会教育長の浅原でございます。</p> <p>本日は、お忙しい中多くの皆様に傍聴にお越しいただけたことに対しまして、まずもってお礼申し上げます。</p> <p>最初に、このたびの豪雨災害によりお亡くなりになられました方々、遺族の方々に対しまして、深く哀悼の意を表しますとともに、未だ行方の分からない方々が、1日も早く救出されることを皆様とともにお祈りをしたいと思います。また、被災された方々に対しましても、心からお見舞い申し上げます。</p> <p>会議の開催に先立ちまして、皆様と黙祷をさせていただきたいと思えます。皆様、御起立をお願いします。</p> <p>黙祷。</p> <p>ありがとうございました。どうぞ御着席ください。</p> <p>それでは、ただいまより平成30年7月の教育委員会会議を開催いたします。</p> <p>本日の教育委員会会議は、通常、県庁内の教育委員会室で開催している会議を、会場を県庁の外に移しましての移動教育委員会でございます。</p> <p>この移動教育委員会は、教育委員会会議を県内各地で開催し、教育委員会について、地域の方々によく知っていただくために平成16年度から実施しております。</p> <p>県の教育委員会会議では、重要な県教育行政の方向性を審議するほかに、教育の諸課題についてのテーマを定めて各委員が自由に討論する意見交換も行っています。</p> <p>それでは、さっそく、会議を進行したいと思います。</p> <p>ここで座らせていただきたいと思います。</p> <p>最初に、教育委員の自己紹介をしたいと思います。各委員さん、順に自己紹介をお願いいたします。</p>
中 田 委 員	<p>こんにちは。中田と申します。山口大学の経済学部で教員をしております。委員の中では一番長く、2期目の6年目でございます。よろしく申し上げます。</p>
宮 部 委 員	<p>こんにちは。宮部と申します。岩国市で建設業をしております。私も2期目でありまして、5年目でございます。よろしく申し上げます。</p>
石 本 委 員	<p>こんにちは。石本と申します。下関で小児科医をしております。今年で4年目になります。よろしく申し上げます。</p>

佐野委員	<p>こんにちは。佐野と申します。今年で3年目になりまして、周南市で不動産業をしております。子どもが2人おりまして、PTAの活動や地域の活動を通じて教育に携わっております。よろしくお願いいたします。</p>
小崎委員	<p>こんにちは。萩から来ました小崎と申します。子どもが3人おりまして、幼稚園から高校まで、その都度PTAに携わってまいりました。2年目で、この移動教育委員会会議も2回目ですので、少し緊張しております。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
教育長	<p>ありがとうございました。  それでは本日の会議の署名委員の指名を行います。  宮部委員と佐野委員、よろしくお願いいたします。  それでは、議案の審議に入りたいと思います。  議案第1号について、教育政策課から説明をお願いします。</p>
教育政策課長	<p>議案第1号「山口県教育委員会表彰規則による表彰について」御説明いたします。  議案書の、2ページでございます。  義務教育課付けで岩国市教育委員会に派遣されておりました 守山敏晴 指導主事が6月27日に早期退職され、翌28日付けで岩国市教育長に就任されました。また同じく6月27日に山口市立鴻南中学校の 岡藤 一大 事務主任が逝去されました。  これに伴いまして、この方々が、表彰規則による「永年その職務に精励した者」であるとして、義務教育課及び山口市教育委員会から教育功労者表彰の内申がございました。  早期退職に伴う表彰の対象となる永年精勤者は勤務年数が25年以上の者、死亡退職に伴う表彰に係る永年精勤者は勤務年数が20年以上の者となっております、内申の状況と併せまして、表彰の基準を満たすものでございました。  急な退職に即応し、これまでの御功績に報いるためにも、速やかに表彰する必要がございましたことから、教育長に対する事務の委任等に関する規則第4条第1項の規定に基づき、教育長が臨時に代理して、両者とも6月27日付けで表彰いたしましたので、御報告し、承認をいただきたく、お諮り申し上げます。</p>
教育長	<p>ただいま、教育政策課から議案第1号について説明がありましたが、御意見、御質問はありますか。  議案第1号について、承認することとしてよろしいですか。</p>
全委員	承認。
教育長	<p>議案第1号を承認いたします。  続きまして、議案第2号について、高校教育課から説明をお願いします。</p>
高校教育課長	議案2号の「県立高校の再編整備について」御説明します。

教 育 長	<p>関連の資料は、5ページから7ページまでとなっております。</p> <p>6、7ページの議案参考資料を御覧ください。</p> <p>光高校と光丘高校の再編統合につきましては、5月の教育委員会会議において、お示ししている資料を用いて御説明し、御協議をいただきました。</p> <p>その後、6月9日（土）に、両校のある光市において地域説明会を開催し、案の内容について周知を図るとともに御意見をいただいたところです。</p> <p>説明会の案内については、報道発表に加え、光・下松・周南市内の全ての中学生・保護者に配布するとともに、説明会会場での案内掲示などにより、参加を呼びかけました。</p> <p>そうしたところ、説明会当日は、私どもの予想を上回る約180人の方々にお集まりいただきました。</p> <p>この説明会では、再編統合自体に反対する御意見はありませんでしたが、「移行期間中の部活動や学校行事はどうなるのか。」、「普通科と総合学科を併置するということが、学習活動に必要な施設・設備は整備されるのか。」、「学力の向上を図るという方向性は、この案の中に入っているか。」など、今後、検討すべき教育の内容についての御質問をいただいたところです。</p> <p>御質問に対しては、「移行期間中の部活動については、これまでの再編統合校の例もありますことから、光高校、光丘高校、そして新高校による合同チームでの練習や大会出場が可能であること。」、「学校行事については、これから両校での協議が必要ではありますが、可能なものについては合同開催をすることもあること。」などを御説明しました。</p> <p>また、施設・設備については、最初から整備ありきではなく、両校で新高校の教育課程、いわゆるカリキュラムを検討した上で、必要に応じて検討する旨をお答えしました。</p> <p>さらに、学力の向上については、お示しの資料の「3 教育の特色の方向性」の（1）にある「普通科・探究コース」の教育内容を例示しながら、しっかり取り組んでいくことを御説明しました。</p> <p>その後、7月2日（月）の6月県議会文教警察委員会においても御説明し、協議をしていただきました。こうした地域説明会での様々な御意見や、5月の本委員会及び文教警察委員会での協議、地元や学校関係者の御意見などを総合的に勘案した上で、光高校と光丘高校につきましては、平成32年度に両校を再編統合し、新高校を光高校の校地に設置することとしたいと考えております。</p> <p>なお、いただいた御意見につきましては、新高校の学校づくりに生かしていきたいと考えております。</p> <p>以上、このような方針で進めてよろしいか御審議をお願いいたします。</p> <p>ただいま、高校教育課から議案第2号について説明がありましたましたが、御意見、御質問がありましたらお願いします。</p> <p>内容については5月の教育委員会会議にて御協議いただきましたが、その後、地域説明会等を踏まえて、高校教育課から説明がありま</p>
-------	---

	した。何かありましたらお願いします。
石 本 委 員	入試の段階で学科やコースについては、決めてしまうと思うんですけど、在学中に希望進路が変わってしまった場合、どの程度まで進路の変更が可能となるのでしょうか。
高校教育課長	まずは、そうならないようにしっかりと検討してもらって決めてもらうというのが第一かと思います。そうは言いますが、御指摘のように希望が変わる生徒も出てくるかと思います。その場合は、学科を変更するのは難しいかと思いますが、コース等については、今後、教育課程を設定する中で、柔軟に対応できるような方策を考えていきたいと思っています。
佐 野 委 員	地域と連携・協働した学校づくりということで、当初からコミュニティ・スクールを設置されるということですが、ここに記載のある、「次世代型コミュニティ・スクール」についてもう少し御説明していただけますか。
高校教育課長	光市では、小・中学校において、「次世代型コミュニティ・スクール」という取組を実施しておりまして、7ページ上の図にありますように、18歳までを見通した「学び」と「育ち」ということで、子どもの学びというのは連続しているものですので、その長いスパンで見ていこうという取組を、ここでは「次世代型コミュニティ・スクール」と呼ばせていただいております。
教 育 長	光市は、浅江中学校等でコミュニティ・スクールの取組が進んでおりますが、それを小・中・高と連続した形で進めていきたいということです。
石 本 委 員	光高校の敷地内に新設ということですが、部活数とか生徒数も増えると思いますが、部活動ができる場所の拡張とか増設などは考えていらっしゃるでしょうか。
高校教育課長	先ほど、光高校の校地に新高校を設置すると御説明しましたが、光高校は、かつてはかなり多くの生徒が在籍していたということで、設備としては現状のままで対応できると考えております。
佐 野 委 員	光高校と光丘高校は、この地域では代表的な学校ですので、地元からは新高校はかなり期待されると思います。両校の良いところを引き継ぎながら、統合することで可能になる取組もあると思いますので、これからの時代に合った、地元の地域を担う若者が、ぜひ通いたいと思う学校づくりをしていただけたらと思います。
教 育 長	ありがとうございます。他にいかがでしょうか。
石 本 委 員	新しい高校について、高校名はどのように決定されるのでしょうか。

<p>高校教育課長</p>	<p>か。</p> <p>過去の再編統合の例によりますと、学校の所在地、教育機能が分かるような組み合わせで、例えば、大津緑洋高校や各商工高校などを校名としてきたところですが、今回の統合で同じ手法をとるかは今後検討してまいります。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>他によろしいでしょうか。</p> <p>これまでは、今説明があったような手法で校名を決めてきたところですが、今回は地域の方の御意見も聞いてみたいと思っているところですが、</p> <p>再編統合に当たっては、例えば、下関工業高校と下関中央工業高校など、規模の大きい学校同士が再編統合して、下関工科高校は県内最大の工業高校となりましたけれども、光高校と光丘高校もかなり規模の大きな学校となり、かなり活性化した学校ができるのではないかと期待しているところですし、そのようにしていきたいと考えておりますので、また御協力をお願いします。</p> <p>議案第2号について、承認することとしてよろしいですか。</p>
<p>全 委 員</p>	<p>承認。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>議案第2号を承認いたします。</p> <p>続きまして、議案第3号について、社会教育・文化財課から説明をお願いします。</p>
<p>社会教育・文化財課長</p>	<p>議案第3号「山口県社会教育委員の委嘱について」御説明いたします。議案書8ページを御覧ください。</p> <p>社会教育委員は、社会教育に関する計画の立案や調査研究を行うことなどによって、社会教育に関して教育委員会に助言をする役割を果たしております。</p> <p>現社会教育委員につきまして、今月末で、2年間の任期が満了することに伴い、新委員の委嘱についてお諮りするものでございます。</p> <p>9ページの候補者名簿を御覧ください。</p> <p>6名の新委員を含む15名の委嘱案でございます。</p> <p>委員定数は20人ですが、この度は、15名の委嘱案としております。</p> <p>これは、本県の行財政構造改革の取組を踏まえ、これまで委員の推薦を依頼していた団体について、役割の重複等を考慮して見直したことによるものです。</p> <p>今回の案においても、幼児から少年期、青年から高齢者などの社会教育関係団体を網羅するとともに、大学関係者、企業関係者、公募委員など、幅広い分野や年代の委員構成としておりますので、社会教育についてこれまでと同様に十分意見を反映できると考えております。</p> <p>次に委員候補者ですが、備考欄に「再任」とお示ししている方は、引き続き委員をお願いする方です。</p>

	<p>「学校教育の関係者」のうち、松本 正子 氏は山口県小学校長会から、椎原 伸彦 氏は山口県高等学校長協会から、「社会教育の関係者」のうち、戸井 由美子 氏は山口県PTA連合会から、「家庭教育の向上に資する活動を行う者」のうち、松永 雅子 氏は山口県保育協会から、松橋 美恵子 氏は山口県地域活動連絡協議会から、それぞれ御推薦を受け、新たに委嘱する方であります。</p> <p>次に、「学識経験のある者」につきましては、指名により委嘱することとしておりますが、3名とも「再任」として、引き続き委員をお願いしたいと考えております。</p> <p>また、公募委員につきましては、この度、男性5名、女性1名の計6名の応募があり、選考委員会による選考の結果、真部 尚志 氏に委嘱したいと考えております。真部氏は、一般社団法人SAKIIDORI（さきどり）プロジェクトの代表として、宇部市の活性化に積極的に取り組んでおられ、広く社会教育全体を捉えた視点から、御意見いただけるものと期待しております。</p> <p>以上、15名いずれの方も社会教育に関心と熱意を持たれ、社会教育委員にふさわしい方であります。</p> <p>御審議のほど、よろしくお願いいたします。</p>
教 育 長	<p>ただいま、社会教育・文化財課から議案第3号について説明がありました。御意見、御質問がありましたらお願いします。</p>
小 崎 委 員	<p>この社会教育委員の方は具体的にどのようなことをされているのですか。</p>
社会教育・文化財課長	<p>社会教育委員の役割としましては、教育委員会に対して、社会教育に関する意見・提言をすることとなっております。2年の任期の中で社会教育に関する提言を取りまとめていただいて、教育委員会に提出していただいております。</p>
小 崎 委 員	<p>教育委員が教育委員会会議で意見を言うように、社会教育委員もそのような場で意見を言うことがあるのでしょうか。</p>
社会教育・文化財課長	<p>昨年度は、「地域における子ども達の豊かな学びを支援する活動の充実に向けて」ということで、議論を重ねておりました。御提言をいただいております。また、その前の会議では、「家庭教育支援の充実に向けて」ということでテーマを決めて、御提言をいただいております。</p>
小 崎 委 員	<p>同じテーマについて、教育委員会でも議論することがあるので、社会教育委員と教育委員が同じ場で協議をするような場があるといいと思いました。</p>
社会教育・文化財課長	<p>今後、そういう場について検討してみたいと思います。</p>
教 育 長	<p>他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。</p>

<p>全 委 員</p>	<p>議案第3号について、承認することとしてよろしいですか。</p> <p>承認。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>議案第3号を承認いたします。</p> <p>それでは、意見交換に移ります。</p> <p>本日の意見交換テーマは、「明日のやまぐちを担う産業人材の育成について」、高校教育課から説明をお願いします。</p>
<p>高校教育課長</p>	<p>それでは、本日の意見交換ですが、テーマを「明日のやまぐちを担う産業人材の育成について」とさせていただきます。</p> <p>最初に、20分程度お時間をいただいて、意見交換のための話題提供をさせていただこうと思います。</p> <p>なお、パワーポイント資料を別冊で用意していますので、適宜、御活用ください。</p> <p>さて、本日のテーマについては、ただいま申し上げたとおりですが、「視点」という形で少し、絞り込みをさせていただけたらと考えております。</p> <p>お示ししているように、「本県の高等学校において、今後の産業人材育成に求められるもの」とさせていただきたいと思っております。</p> <p>もっと言えば、今後の社会の変化、見通しを踏まえ、「どのような人材が求められるのか」といったことを踏まえ、そのためには「どのような教育が必要か」「どのような産業教育が求められるのか」といった方向性でお願いしたいと思っております。</p> <p>なお、話題提供のストーリーですが、最初に、簡単に産業教育を行っている専門学科の概況の御説明をし、次に、産業教育の特色ある事例として、本日の会場に近い3校の取組を御紹介します。</p> <p>次に、今年の秋に開催する「全国産業教育フェア山口大会」のPRもさせていただきたいと考えております。</p> <p>最後に、本県における産業教育について、現在の方向性を踏まえながら、御紹介した「全国産業教育フェア山口大会」を契機に、より充実させていきたいという中で、今後、大きな社会変化も予想されていることから、どういった点に留意すべきかといった流れで、意見交換につなげたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。</p> <p>それでは、最初に本県の産業教育の現状です。</p> <p>スクリーンには、公立高校のうち、産業教育の中心となる専門学科を設置する学校を示しています。</p> <p>理数科や英語科、探究科なども、高等学校設置基準では、専門学科に属しますが、ここではこれらを除いた、いわゆる職業系学科を対象としています。</p> <p>工業や商業の専門学科のみを設置している専門高校と普通科と専門学科の併設校を色分けしてお示ししております。例えば、防府高校は普通科と看護科が併設されています。</p> <p>申し上げるまでもなく、素材型産業が瀬戸内に集積していることと大きく関連しています。</p> <p>5枚目のスライドは、県内の公立高校で学んでいる高校生の学科別</p>

の状況を示したものです。

今春の入学定員をベースにグラフ化しています。

普通科系が4, 455人、実際の高校生は3学年分ですから、ざっくり言って、この3倍となりますが、全体の56%となっています。職業系学科が35%、総合学科が9%となっています。

なお、この表にお示ししているように、職業系学科の中では、工業科が圧倒的に多くなっています。

6枚目のスライドは、公立高校を卒業した生徒の進路状況です。

例年9月の教育委員会会議で進路状況調査を御報告しておりますが、ここでは、平成29年3月卒業までの5年間分を示しています。

主なところでは、大学等進学者は44.9%、就職者は29.8%となっています。

また、御覧のように就職者の8割強が職業系学科の卒業生となっています。

それでは、続いて、「特色ある取組」を御紹介します。

言うまでもなく、各学校では、多くの時間、学習指導要領に基づいた教育活動を行っているわけですが、学校や地域の実情を踏まえて、各学校で特色ある産業教育を行っております。

本日は、この会場に近い学校のうち、厚狭高校、小野田工業高校、そして、宇部工業高校の取組を御紹介します。

では、最初に、厚狭高校の取組について説明いたします。

厚狭高校総合家庭科では、3年次に学習の集大成として「学習成果発表会」を行っています。

この発表会に向けてさまざまな専門科目で身に付けた知識・技術を生かしながら、創作ドレスの製作に取り組み、小中学生、保護者や地域の方に向けてファッションショーを実施しています。

ファッションショーで披露された作品は、全国高校生クリエイティヴコンテストに応募しています。

このコンテストでは、全国1位を過去10年間で5回受賞し、昨年度も全国2位～4位に4作品が入賞するなどの成果を挙げており、デザインの発想方法や服飾技術等は後輩に受け継がれています。

また、昨年度、秋田で開催された「全国高校生ファッションデザインコンテスト」、これは、全国産業教育フェアの中で行われましたが、当時の2年生が取り組み、決勝大会に進む9点の中の2点に選ばれました。10枚目のスライドにあるのがその2点です。

この2点の作品は「高校生から発信する故郷（ふるさと）の魅力」をテーマに作成したもので、山口県を代表する名産品や歴史について調べ学習を行った後、デザイン画を描き、プレゼンテーションを重ねながら製作したものです。

また、厚狭高校では、JAXA宇宙教育センターと連携した教育活動にも取り組んでいます。

昨年度から、宇宙食の開発に向けてJAXAのスタッフの方から講演や授業を行っていただくとともに、研究活動に対する評価をいただいています。

授業の中では、宇宙飛行士の生活の特徴や宇宙食に求められる機能



について学習し、山口県の郷土料理や和菓子を素材とした宇宙食などについて研究しています。

こうした学習をとおして、これまで「課題研究」で取り組んできた郷土料理「けんちょう」をアレンジして開発した「けんちょうコロッケ」や地元銘菓「寝太郎餅」を宇宙食に加工することに挑戦しました。

講師の方からは、「予想以上のものができていて驚いた」という評価とともに、「長期保存した後でも、成分の変化がないことなどの検証をクリアできれば、宇宙食として認められるのではないか」というアドバイスをいただいております、現在、実用化に向けてさらなるチャレンジを続けています。

このような取組により、生徒は学習意欲が向上し、実践的な力が身に付いているとの報告を受けています。

次に、宇部工業高校の取組を御紹介します。古来の製鉄法である「たたら製鉄」の復元操業です。

この取組は、平成25年から毎年文化祭で実施しており、古来のものづくりの技や知恵を学ぶとともに、当時の苦労を体験するという貴重な機会になっています。

「たたら製鉄」について、簡単に説明いたします。

まず、たたら製鉄の技術責任者のことを村下（むらげ）と言いますが、宇部工業高校のOBであり、文部科学大臣選定の保存技術者である、木原村下（きはらむらげ）を招いて、講義をしていただきます。

その後、村下の指導のもと、御覧のような工程を数日間かけて、鉄のもととなる鉬（けら）の取り出し、その鉬から鋼を作っています。火を夜通し炊いて作業をするため、交代で作業にあたります。

では、実際にたたら製鉄の操業の様子を御覧ください。

(動画視聴1分20秒)

学校では、このたたら製鉄によって取り出した、鉬を鍛錬して、小刀などの製品を作ることにも繋がっています。

このような取組を通して、製鉄に関する理解を深めながら、ものづくりに対する基礎的・基本的な力を身に付けています。

最後に、地元の小野田工業高校での取組を御紹介します。全日制ばかりではなく、定時制でも特色ある取組を行っているということで、学校設定科目「デュアル実践」を御紹介します。

この「デュアル実践」は、「授業の単位」として認められる点が、いわゆるインターンシップとは異なっています。

この「デュアル実践」を分かりやすく図示しましたが、前期と後期に分けて、年2回行っており、前期は2社に3日間ずつ実習に行き、後期は1社に7日間行くようにしています。

したがって、1年間で延べ13日間、3社で実習することになります。

御協力いただいている企業は、例年、地元の約10社となっております、2006年（平成18年）から多くの生徒がお世話になり、実践

的・体験的な学習の機会を得させていただいております。

こうした取組は、3月に告示された高等学校の次期学習指導要領で示されている「社会に開かれた教育課程」と軌を一にするものだと考えています。

実習先も、自動車の部品メーカー、自転車屋、建設会社、新聞社等と多岐にわたっており、さまざまな仕事を体験させていただき、社会とつながった実践的な力が身に付いています。

この取組を今後も継続して行う中で、多くの生徒がこの取組の中で、成長していったほしいと考えております。

以上、見ていただいたように、各校特色ある取組を実践しているところですが、こうした取組の成果を発表し、産業教育の一層の充実・発展を図るために、毎年、文部科学省が主催して行われている全国大会が、「全国産業教育フェア」です。

そこで、「全国産業教育フェア」について、次に御説明します。

御案内のとおり、今年本県では、明治150年プロジェクトに取り組んでいますが、その1つのイベントとして、本年10月、「第28回全国産業教育フェア山口大会」を開催することとしています。

その基本理念としては、「将来の社会や産業界を担う人材育成」と「産業教育の一層の充実・発展」に向けて、専門高校等の特色ある教育活動や魅力とともに、生徒一人ひとりが活躍する姿を「「明治維新胎動の地」山口県から全国に発信する」こととし、現在準備を行っているところです。

10月の20日（土）と21日（日）の2日間、メイン会場を山口きらら博記念公園多目的ドームとして、その他に各種競技会などを、維新百年記念公園スポーツ文化アリーナ、山口県健康づくりセンター、キリンビバレッジ周南総合スポーツセンターの3会場で行います。

各会場で行う内容についてですが、メイン会場である山口きらら博記念公園多目的ドームでは、総合開閉会式、JAXA記念講演、作品展示、展示販売、体験コーナー、キッズビジネスタウン等を行います。

維新百年記念公園スポーツ文化アリーナでは、農業科の取組である全国高校生フラワーアレンジメントコンテストと福祉科の取組である全国高校生介護技術コンテスト、そして全ての学科による意見・体験発表等各種発表会を行います。

山口県健康づくりセンターでは、家庭科の取組であるファッションショー、全国高校生クッキングコンテストを行います。

キリンビバレッジ周南総合スポーツセンターでは、工業の取組である全国高等学校ロボット競技大会を行います。

内容について、もう少しイメージを膨らませていただくため、昨年の秋田大会の様子を御覧いただきますと、左上から、総合開会式での生徒によるアトラクション、右上が、作品展示や商品販売左下が、各学科・各校の取組の発表などを行う参加・交流イベント、右下が、各学科の作品・研究についての発表の様子です。

さらに、次のスライドですが、左上が、ロボット競技大会、右上が、フラワーアレンジメントコンテスト、左下が、介護技術コンテス

ト、右下が、華やかなファッションショーとなっています。

山口大会でも、同様のイベントとともに、これらに加え、「山口県独自企画」として、25枚目のスライドにある取組を考えています。

本県が昨年から宇宙教育で提携しているJAXAの方による記念講演と、全国から集まった生徒さんたちを萩の世界遺産に案内する「明治日本の産業革命遺産エクスカーション」、また、本県高校生の特色ある取組として、先程御覧いただいた宇部工業高校の古来の製鉄法「たたら製鉄」の復元操業や、田布施農工高校の「日本酒」の酒造演示、柳井商工高校の伝統織物「柳井縞」機織の体験、そして、県独自の特別支援学校技能検定「きらめき検定」を活用した喫茶サービスを行います。

「たたら製鉄」の復元操業は、産業教育フェアでは、ドームの外側に盛り土をして実施します。

こちらでも火を扱うため、数日間かけて交代で生徒が火の守を行い、操業する予定としております。

また、田布施農工高校の「日本酒」の酒造演示は、ドームの内外の2か所で行いますが、写真でお示ししているように、酒造の工程を紹介することとしています。

柳井商工高校を中心とした柳井縞の取組は、ドームの中で行いますが、普段から地元の小学生にも出張授業等を行っているため、全国産業教育フェアでも、小学生向けに体験コーナーを設ける予定です。

特別支援学校の取組である「きらめき検定」を活用した喫茶サービスでは、ドーム内に喫茶店を出し、実際に接遇を行う予定となっています。

いま御紹介した以外にも、4会場で多くの取組が行われます。

スクリーンには、大会のキャッチフレーズと各学科の生徒が制作した大会マスコットをお示ししております。

ちなみに、これらの「ちよるる」も生徒たちが作ってくれましたが、何かメッセージが送られてきているようです。

「おいでませ」。是非、多くの方に御来場いただき、専門高校等の生徒の学習成果、そして何より高校生たちが活躍する姿を見ていただきたいと思えます。

さて、御説明も最後になりますが、本県の高校における「産業教育の方向性」です。

現在、各学校においては、学習指導要領に基づいた教科の指導とともに、学校や地域の実情を踏まえ、本日、御紹介したような特色ある取組により、専門分野の基礎的・基本的な知識・技術の定着や、より実践的な力の修得を図っているところです。

これにより、「地域に貢献できる、将来の地域産業を担う人材の育成」に努めています。

そして、今回の「全国産業教育フェア山口大会」への取組を契機として、本県の産業教育を一層充実してまいりたいと考えているところです。

しかしながら、マスコミなどでもお聞きのとおり、これからの時代は今までよりも、さらに大きな変化が予想されます。

I o Tやビッグデータ、A I等をはじめとする技術革新が一層進展

<p>教 育 長</p>	<p>し、社会や生活を大きく変えていく超スマート社会の到来が予想されています。</p> <p>AIやロボット等により、労働力が取って代わられる可能性が指摘されている一方で、これまでになかった仕事新たに生まれることも予想されています。</p> <p>このような社会の変化も予想されることを踏まえまして、本日は、「本県の高等学校において、今後の産業人材育成に求められるもの」という視点から、「どのような人材が求められるか」、そして、そのためには、「どのような教育が求められるか」という観点から、委員の皆様さまにさまざまな御意見を頂戴したいと思います。</p> <p>それでは、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>ただいま、高校教育課から、取組状況について説明がありました。御意見・御質問をいただきたいと思います。</p>
<p>中 田 委 員</p>	<p>大学で就職の担当をやったことがあります。大学では入学の段階で学部によって専門性が現れますので、方向性はつきやすいと思います。経済学部や人文学部のように、就職の際に特別の資格を求められる場合が少ないものもありますが、一定の方向性は決まっています。</p> <p>高校生の場合、産業教育を行う上で、まずは現場のニーズに沿ったものであるかどうかを確認することが重要だと思います。</p> <p>その一方で、私が一番重要だと考えるのは、やはり企業に入ってからすぐに活躍できる人材というのは非常に限られていると思いますので、長期にわたって自己を磨いて、会社の研修なども活用して、会社に貢献できることではないでしょうか。ですので、特定の技能を伸ばすこともいいことかもしれませんが、そういう基礎的な資質が大事だと思います。</p> <p>最近の人は、人前で発言をしないなど言われますが、心身ともに健康で、自分の意見が言えて、他人と協調できるといった資質を高校生の時に育てていけるか、授業だけで身に付くものではないと思います。部活動や友達との付き合いなどで、総合的に人格というものは作られていくので、私の意見の結論としては、社会人として基本的な素養を身に付けることが大事だと思います。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>ありがとうございます。企業訪問をする中でも、元気であいさつができ、コミュニケーションが取れる人材が欲しいという声もいただいているところではあります。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>
<p>宮 部 委 員</p>	<p>まず、山口県の人口が減ってきている中で、地元に残ってもらわないといけないという点も大事だと思います。</p> <p>学科の種類と山口県内の企業のニーズが推移をしてくれています。IoTなどの話も出ておりましたが、時代に合うような学科の編成というものを考えていかなければいけないかと思います。</p> <p>それから、就職後3年以内の離職率ということもあります。ミスマッチという言葉で済ませるのではなくて、そうならないような取組を</p>

	<p>していかなければならないと思っています。</p> <p>私も岩国で建設業をやっておりますが、ずっと求人をしている状況です。なかなか技術を持った人がいません。これはキャリア教育の中で高校だけではなく、中学校、小学校から取り組むべきだと考えています。いろいろな職業と触れ合う中で、自分の力が世の中でどのように役に立つのかというような意識が形成されていくのだと思います。高校生活3年の中でインターンシップにも取り組まれています。少し回数等が少ないと感じます。先ほど紹介のあった「デュアル実践」は合計13日間ということで、これは十分な日数だと思いますが、通常はここまで長くはないと思います。その中でやられることも多くは現場見学で、自分が習ってきたこと、習得してきたことがどういう面で役に立つのかというのが見えにくいのではないのでしょうか。</p> <p>資格の取得話も出ていましたが、もっと高校生の段階で受けることのできる資格の科目を増やしたらどうかと思います。建設業の話で申し訳ありませんが、「施工管理技士」という資格があります。それを取得していないと現場に出られないのですが、高校を卒業してずいぶん経たないとその資格が取れません。教員や医師は卒業と同時に取得できると思いますが、職業によってはそのような状況です。県だけで変えられるものではないと思いますが、できれば在学中に取得できるようにすれば、目的と結果が結びついていきやすいのではないかと思います。</p>
教 育 長	<p>「施工管理技士」というのは、建設業の経験年数が必要になるのでしょうか。</p>
宮 部 委 員	<p>現在でも、学科試験までは在学中に受けることができます。それでも進歩したのですが、実技試験がなかなか受けることができないという状況です。</p>
教 育 長	<p>ありがとうございます。離職率等、考えていかなければならない課題を御指摘いただきました。</p>
佐 野 委 員	<p>他にいかがでしょうか。</p>
	<p>経営者仲間で、どのような人材が欲しいか聞いてみたことがありまして、仕事の内容をしっかりと理解して、一緒に働ける人材が欲しいという意見が多いです。若い人が増えると、即戦力にはならないとしても雰囲気や勢いなど、周りに好影響を与えることもありますし、現場での経験を積極的に積もうという姿勢があると、ゆっくりでもいいから仕事を理解して成長してもらえろという意見がありました。</p> <p>最近の若い人は、丁寧に仕事を説明して、自分が納得をしないと行動に移してくれないという意見もありますが、仕事の内容を把握するためにも、まずは積極的な姿勢で行動して経験を積むことが大切だと感じます。</p> <p>また、社会に出ますと、いろいろな世代の人と仕事をするようになりますので、コミュニケーションの力というものが大事になってきます。一言にコミュニケーションといっても、子ども達と、学校と、家</p>

	<p>庭と社会で、捉え方が少し違っている部分もあるのかなと感じます。子ども達もコミュニケーションは大事だと考えていると思いますが、ニュアンスが違うのかなと思いました。</p> <p>先日、宇部工業高校を視察させていただいた時に、コミュニティ・スクールで企業とか地域の方にも参加してもらおうというお話を伺いました。そのような機会の中に世代間で、お互いを知る中で、コミュニケーションの認識の違いを埋めるということもできるのではないかと考えておりましたし、そのような機会というのは大切だと感じております。お互いに大切だと考えているところは同じだと思いますので、共通の認識を持つことで、企業は若い人材を生かすことができると思いますし、若い人も自分の力を十分に発揮できるのではないかと思います。学校がそのパイプ役になってもらえたらと感じています。</p> <p>また、先ほど離職率の話が出ましたが、宇部工業高校では、先輩とのつながりを大切にして、就職後もフォローしているということでした。自分と同じ感覚を持った誰かに相談できる環境が心の支えになるのかなと思ひまして、その影響もあつてか、宇部工業高校では離職率が低いということでした。そういった相談できる関係ができているということで、良い方向に進んでいるのだと思いました。「たたら製鉄の復元操業」のお話もありましたが、同じ経験を持つ機会を多くつくっていく、子ども達に自信を持ってもらう経験を積ませてあげること、自分の居場所を見つけるきっかけに繋がると思いますので、そういう機会を学校の方で提供してあげられるといいのかなと感じています。</p>
教 育 長	<p>コミュニケーションの捉え方の違いという部分で、子どもと社会とで捉え方についてもう少し詳しいお話をいただいてもよろしいでしょうか。</p>
佐 野 委 員	<p>個人的な意見で申し訳ありませんが、子どもの場合は、すぐに反応を返すとか常に連絡を取り合うという頻度を重視しているような印象なんですけれども、われわれ企業側としては、頻度も大事かもしれませんが、正確な情報を確実に伝えようというところに重点を置いているように感じています。</p> <p>その辺りで少しニュアンスの違いというのを感じています。</p>
教 育 長	<p>ありがとうございます。SNS等の普及により、そのような傾向があるのかもしれませんが、他にいかがでしょうか。</p>
石 本 委 員	<p>皆さんの意見と重なるかもしれませんが、技術は仕事をしながら身に付けることができると思いますので、健康であることとかコミュニケーション能力が大切かと思ひます。それに加えて、社会人としての言葉づかいであるとかマナーなどの一般常識を学ぶような機会を提供していただきたいと感じています。</p> <p>正しい言葉づかいやマナーを身に付けたうえで先輩方から技術を教わることで、信頼を得て、仕事を任せてもらえて、また、それがうま</p>

<p>教 育 長</p>	<p>くいけばそれが励みになってと好循環になると思います。それが離職率の低下にもつながると思います。</p>
<p>小 崎 委 員</p>	<p>ありがとうございます。他にいかがでしょうか。</p> <p>人材育成に当たって、周りの環境というのが大事だと思います。私の周りの高校生を見ると、すごく素直で、やる気があって、期待を持たせてくれるような生徒が多くいるように思います。この度の豪雨災害でも、高校生がボランティアとして非常に活躍したということを知り、聞くこともありました。そのように力のある高校生に、活躍できる場を与えてあげるのが大人の役割なのかなと思っています。</p> <p>できれば山口県で生まれて育った子は山口県に残って、盛り上げていってほしいと思っています。そのためにもいろいろな取組をしてほしいと思いますし、「さんフェア」についてももっと周知に力を入れてほしいと感じています。高校生に対してはある程度知ってもらえていると思いますが、小・中学校にどの程度周知ができているのかなと思います。早い段階から、山口県のことを知ってもらおうというためにも周知方法など、もう少し力を入れてほしいと思います。</p> <p>私も先日、宇部工業高校を視察させていただきました。残念ながら、生徒の活動を見ることはできなかつたんですが、先生方がいろいろと説明してくださる中で、一生懸命に取り組んでいるんだということがひしひしと伝わってきました。本当に、先生方が楽しそうに説明をしていただけます。そのような先生方に教わることができて、生徒さんも楽しく学べるのではないかと思います。</p> <p>厚狭高校の取組でファッションショーのお話がありましたが、こういう生徒に大きな場所で、例えば、「ゆめ花博」などの大きなイベントで、Tシャツをデザインしてみるとか、そういう経験が自信にもつながると思いますし、そういう場を提供できないかなと感じています。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>ありがとうございます。山口県のことをよく知ってほしい、山口県の仕事についてもっと興味を持ってほしいというお話がありました。皆さんも御覧になったことがあると思いますが、山口県の商工労働部が作成している「山口県の工業」という小学生向けの冊子があります。改めて読んでみると、やさしい言葉で書いてあるんですけど、山口県の工業だけでなく、いろいろな職業について具体的に分かりやすく書いてあります。こういったものを使いながら、早い段階から山口県の良さを伝えていけたらいいと思っています。</p> <p>それから、山口県で育った者は山口県に残ってほしいという点ですが、県内就職というのは課題でありまして、取組をしているところです。もちろん、最終的に就職先もそうですし、進学先についても、決めるのは本人であり、保護者であるんですけども、山口県の良さを知らないがために県外に出て行ってしまおうというのは防いでいきたいなと考えています。</p> <p>他に御意見がありましたらお願いします。</p>

中 田 委 員	就職した後に、悩みなどを相談できる相手がいるかどうかということも大事ではないかと思います。ある程度の規模の企業であれば、同年代の人も多いということで、そのような環境が得られるのかなと思いますが、規模の小さな企業に就職した場合は、なかなか難しいかと思います。そういった場合に、領域の違う職種であっても、そのような場を提供するような仕掛けも必要かと感じています。教育委員会が行う業務ではないかもしれませんが、そのように感じています。
佐 野 委 員	産業教育フェア山口大会の内容についてですが、説明の中にもありましたが、山口県は産業人材を多く輩出しておりますので、小さいころからそのような仕事を目指している人も多いのではないかと思います。そこで、小学校や中学校へのPRはどのようにされているのでしょうか。
高校教育課長	小・中学校への周知については、市町教育委員会にお願いしているところであります。県としてももっとできないか考えてまいります。
教 育 長	「さんフェア」は「ゆめ花博」の期間中に開催しますので、引き続きPRに力を入れてまいりたいと思います。
石 本 委 員	「さんフェア」について、私は下関に住んでいるのですが、会場から遠い生徒にとっては、個人で会場まで行くのは大変で、保護者の力を借りないと参加できないと感じています。バスツアーなど、気軽に参加できるような企画があればいいと思いました。
教 育 長	御意見ありがとうございました。 それでは、以上で本日の意見交換を終わります。 次に、次回の教育委員会会議の日程について、教育政策課から説明をお願いします。
教育政策課長	次回の教育委員会会議は8月23日（木）午後2時からを予定しております。
教 育 長	以上で7月の教育委員会会議を終わります。 ありがとうございました。傍聴の皆様方におかれましても、お忙しい中、足を運んでいただきありがとうございました。